



[特別講演会&ディスカッション]

コミュニケーション障害分野における バーチャルリアリティの応用： 吃音研究からの示唆

近年、バーチャルリアリティ（VR）は、コミュニケーション障害の支援や研究に新たな可能性をもたらしています。本講演では、吃音研究におけるVR活用の知見をもとに、対人場面での不安や発話の困難にどのような変化が見られるのかを紹介します。また、ディスカッションでは、VRを用いた支援の特徴や課題に触れながら、コミュニケーション障害分野における今後の展望について考えます。

参加費
無料

日英
逐次通訳あり

2026

6/5 金

9:00-11:00
(開場 8:45)

会場

広島大学教育学部管理棟 2階 第1会議室

広島県東広島市鏡山一丁目1番1号

お申し込み方法

参加申し込みは右記の二次元コードからお申込みください

申し込み締切：6月3日(水) 15:00



対面&オンライン

オンライン登壇



[9:00-10:30]

特別講演

シェリー・B・ブランデージ

[10:30-10:50]

ディスカッション

[10:50-11:00]

質疑応答



シェリー・B・ブランデージ

ジョージ・ワシントン大学教授。コミュニケーション障害学分野において国際的に高く評価されている。専門は吃音を中心とした流暢性障害および社会的コミュニケーション障害であり、発話に関わる心理的・相互作用の側面の研究を行っている。近年はバーチャルリアリティ（VR）を活用した評価・介入研究を先導し、現実場面に近いコミュニケーション状況を再現する革新的なアプローチを展開している。米国言語聴覚協会（ASHA）認定言語療法士、同フェローおよび流暢性障害認定専門家（BCS-SCF）として、研究・教育・臨床の各領域において顕著な貢献を行っている。

川合 紀宗

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構教授。特別支援教育および言語聴覚障害学が専門。吃音を含む言語障害のある子供への支援やインクルージョン教育の推進を主な研究領域とし、コミュニケーション困難を社会的相互作用や教育環境との関係の中で捉える研究に取り組んでいる。近年はBrundage教授とともに、AIやバーチャルリアリティ（VR）を活用した支援方略の開発や、学習環境と障害のある子供との関係性に着目した教育実践の構築を進めている。米国言語聴覚協会（ASHA）認定言語療法士、言語聴覚士、公認心理師として、研究・教育・臨床を横断した活動を展開している。

本講演会は、科研費 基盤研究 (A)「バーチャル・リアリティ環境下における吃音治療システムの開発」(研究課題番号：24H00166、研究代表者：川合紀宗・広島大学)の助成を受けて実施しています。